

真の友情とは？ ～アンパンマンが愛されるのは？～

先日、JRを利用する機会があり、駅で電車が来るのを待っていました。しばらくして反対側のホームに特急列車が滑りこんできました。すると、ホームにいた小さな子どもが「あっ、アンパンマン列車！」と歓声を上げました。子どもは、アンパンマンが大好きです。みなさんの中にも、かつてそうだった人（今も？）がいるでしょう。毎年あるおもちゃ会社が、子どもが好きなキャラクターについてのアンケート調査を行っています。アンパンマンの人気は高く、何度も総合1位に選ばれています。

アンパンマンはどんなヒーロー？

このアンパンマン。ちょっと変わったヒーローです。例えば、困っている子には自分の顔を食べさせます。それによって自分の力が半分になってしまっても、目の前の人を見捨てることはしません。水に弱く、雨に濡れると力が弱ってしまうというはっきりした弱点があるのも珍しいヒーローです。敵であるバイキンマンには、パンチ（アンパーンチ）で追い払うだけで命を奪ったりしません。それどころが、バイキンマンが困っているときには手助けさえしてしまうのです。アンパンマンはなぜこのようなヒーロー像になったのでしょうか。

アンパンマンの作者、やなせたかしさんは高知県で育ちました。やなせさんはこう語っています。「一般的なヒーローは、マント一つ汚さずに飛び去っていく。壊した街もどうなったのかわからない。そういうヒーローって、本当の正義なんだろうか。本当にお腹がすいて困っている、ひとりぼっちで寂しくてっていう人のところには、そういうヒーローはなぜか現れない。いったい誰を助けているんだろう。」



やなせさんは、戦争中の辛い体験や戦後の苦しい生活を経験し、その体験から「絶対に変わらない正義とは、目の前でお腹をすかせている人がいれば食べ物をあげることだ。」と考えるに至るのです。つまり「**自分が困ることになっても、本当に困っている人を助けることだ**」ということです。だからアンパンマンは自分の顔を食べさせて、お腹がすいて困っている人を助けているのでしょうかね。

アンパンマンが子どもたちに愛されるのはなぜ？

TVアニメのアンパンマンでは、テーマ曲として「アンパンマンのマーチ」が流れます。聞いたことがある人は多いでしょう。（歌える人も多いかも？）

『・・・そうだ、おそれないで、みんなのために 愛と勇気だけが友だちさ・・・』

歌詞の中にこんなフレーズがあります。「愛と勇気だけしか友だちがいないのだろうか」と感じる人がいるそうです。この歌詞は、実はやなせさん自身が作詞したものです。「闘うときは自分一人だと思わなくちゃいけない」という意味が込められています。何か勇気をもって行うときには、仲間を巻き込むのではなく、**一人でも仲間を守っていく**覚悟が大切だということです。

たとえ自分が困ることになっても、困っている友だちを助ける。一人でも仲間を守るために闘う。だからこそアンパンマンには多くの仲間がいます。そしていつの時代になっても小さな子たちに愛されているのでしょうか。本当の友情とは、こういうものかも知れません。



